

実践例：中学校国語

群馬県教育委員会

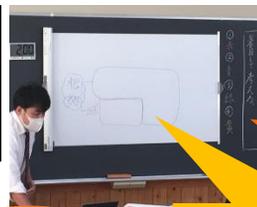
単位時間の学習例：第2学年「根拠を吟味し、説得力を高める～モアイは語る～」

ICT活用の場面及び機能とよさをチェック!



1. 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。

めあて：筆者がイースター島の事例を示した理由を考えよう。

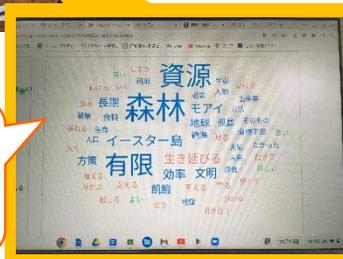


電子黒板やプロジェクタ等の大型提示装置を使用して提示する。

□ 提示・配布機能

短時間で！
効率的に！

単元の導入で、生徒が記入した初発の感想の中で多く使われた言葉を集約しておき、生徒の実態を基にして学習課題を設定させる。



2. 本論と結論の関係を確認する。

□ 共同編集機能

各自が読み取った内容について蛍光ペン機能を使って線を引かせ、それを基に本論と結論の記述の共通点をグループで話し合わせる。



複数で！
同時に！

3. 論理の展開と構成の工夫について話し合う。

□ 思考の補助機能

拡大して部分を確認

縮小して全体を把握



比較

何度でも！
簡単に！

拡大縮小機能を使い、全体の構成や部分の記述を一画面上で比較し、共通点を視覚的に捉えさせる。

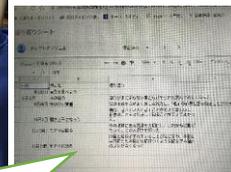
筆者が自分の主張を導くための構成の工夫として、イースター島の事例を根拠として示していることに気付かせる。



4. 根拠を示すことの重要性について振り返りをする。

□ データの保存・提出機能

本時のめあてや指導事項に基づいた、振り返りを入力・提出させる。



【生徒の振り返りより】

記述を比較したことで、本論の4つの事例は、結論の筆者の主張を強めるための根拠となっていることが分かった。次は、筆者の4つの事例が適切かどうか、について考えてみたい。

振り返りを毎時間記録し、確認させることで生徒の学びの自覚を促す。